



前瀧講師による膝車の指導

## 第14回全国中学校（教科）柔道指導者研修会

第14回全国中学校（教科）柔道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本柔道連盟、後援＝スポーツ庁、勝浦市教育委員会）が10月13～14日の2日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで講師11名、参加者31名（初参加28名含む）が集まって実施された。

本研修会は、中学校保健体育武道における柔道授業の充実に向けて、柔道を専門としない中学校保健体育科教員の指導力向上に資することを目的に開催された。

当初3日間での開催予定であったが、最終日が悪天候による交通機関への影響が想定されたため2日間の短縮開催となった。

### ■1日目（10月13日）

開講式では、田中裕之たなかひろゆき全日本柔道連盟普及振興部長、永嶋信哉ながしまのぶや日本武道館振興部長が主催者挨拶をそれぞれ述べた。

開講式終了後、オリエンテーションでは、高橋健司たかはしけんじ講師より本研修会に臨む心構えについて参加者に対し説明があった。「始めから全力を出して授業を展開することができないのが武道である。技術を定着させることは難しいが、指導法は指導者の数だけある。生徒の授業の楽しませ方、役割分担など工夫することで専門外の単元でも指導できる。みなさんの持ち味を生かして授業を実施してほしい」と述べた。

引き続き「基本的な指導」の講義に入った。高橋講師から「町道場のように修行に値する時間確

保がある指導と保健体育授業内の学校体育で行う指導は内容と取り組み方が異なる。わずかな時間であっても柔道の特性に触れたことが後の学校生活、日常生活、社会生活において『生きる力』『活きる力』『生き抜く力』を身につけた要因であると言われることが指導者としての喜びにつながる。生徒に対して柔道を学ぶ意味・意義をしっかりと伝えていってほしい」と説明した。

大道場に会場を移し、基本指導②を行った。向井幹博講師が講道館柔道の礼法を説明し、実際に立礼、座り方、座礼を指導した。その後、高橋講師が基本となる姿勢と組み方について説明した。

### ■2日目（10月14日）

受け身の指導では高品亮輔たかしなりようすけ講師から「衝撃を分散させることが重要。体育座りからゆりかご動作で転がるように球体を意識させることで生徒もイメージできる」と安全面の留意点を示した。

続いて行われた固め技（基礎・応用）の指導では、濱岡睦月はまおかむつき講師がゲーム要素を取り入れて生徒を楽しませる授業を紹介した。「固め技で3つある抑え込みの条件のうちひとつでも満たさなければ抑え込みが成立しない。生徒にはヒントを与える程度にとどめておき、自由な発想で考えさせることが重要である。これが思考力・判断力・表現力を養うことにつながる」と説明した。

前瀧大吾まえたきだいご講師による投げ技（膝車）の指導が行われた。「低いところから高いところ、ゆっくりから早くと段階的な指導で生徒の恐怖心を和らげ

て、安全な授業を展開できるように工夫してほしい」と述べた。

午後から山根友樹やまねゆうき講師が投げ技の大腰と体落としの指導が行われた。「経験者でも投げられる時の恐怖はある。初心者はもっと怖いと思う。対人の練習で取りも受け身のサポートをすることで、恐怖心の緩和ができる」とポイントを示した。

その後、翌日の悪天候による交通機関への影響を考慮し、急遽予定を変更して、田中講師の「評価の実際」と木村昌彦きむらまさひこ講師の「柔道授業の魅力」を練り上げて実施した。

木村講師が「少しの気づきでImpossible（不可能）がI'm possible（私はできる）になる。視点を変えることで世の中は変わる。当たり前をもっと深く考え、常識を疑うことでできることがあるはず。対人競技の柔道は欠点を武器にできる」と授業デザインについて説明した。

引き続き、閉講式を行い、受講生を代表して東京都磯田芽依いそだめい教諭（江戸川区立小岩第五中学校）に高橋講師から修了証が授与された。最後に田中普及振興部長が主催者挨拶を述べ、全ての日程を終了した。



向井講師による講道館柔道の礼法の指導



固め技の条件について解説する濱岡講師

### 磯田芽依（東京都江戸川区立小岩第五中学校・保健体育科教諭）さんに聞く！

Q. 勤務校の生徒の様子を教えてください。

「生徒数は1年生3クラス、2年生3クラス、3年生2クラスと特別支援学級を含め約300名の都内では小規模校になります。保健体育の授業は種目によりますが、やる気のある種目は積極的に活動してくれます」

Q. 本研修会に参加した経緯を教えてください。

「専門がバスケットボールなので武道の授業を不安に思っていたところにちょうど職員室の回覧にこの研修会の要項があり、楽しそうだなと思って申し込みをしました」

Q. 武道授業の予定を教えてください。

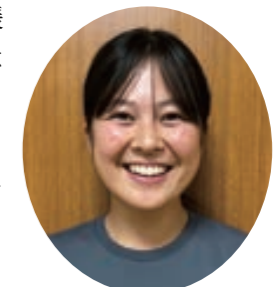
「保健体育科教員が主任と新卒2年目の私だけなので、今年度の柔道授業は私一人で実施する予定です。男女共修で1年生3クラスと3年生2クラスを担当します。7時間想定で受け身と固め技を中心に指導する予定です」

Q. 武道授業における課題があれば教えてください。

「柔道は自分自身が中学、高校の授業で経験しただけです。やっていた頃は楽しかったのですが、いざ指導する立場になることを想像すると、指導のポイントがわからず不安です。研修会に参加して柔道の楽しさを改めて実感できたので、今は柔道の楽しさを早く生徒に伝えたいというワクワクした気持ちでいっぱいです」

Q. 講義の中で印象に残っていることを教えてください。

「『なぜ武道授業を実施しなければならないのか？』と私自身が疑問に思っていました。今回、田中講師の『教育に生かす武道の心』の講義を受けて、柔道授業で上達のために互いの痛みを理解することで思いやりの心が芽生え、生徒の心の育成に繋がる部分があると感じました。実技も楽しくできたので、また機会があれば参加したいです」



磯田芽依さん